

* 内容を誤解するおそれのない極めて軽微な誤りは、省略しています。

* この正誤表は更新される場合があります。最新版はICBAの HP (<https://www.icba.or.jp/zzfilebox/kenshuka/2020seigo.pdf>) でご確認ください。

No.	ページ	行等 (Lは行数)	正	誤	備考
1	53	L8	・・・アルミニウム合金材の溶接)	アルミニウム合金材)	R4.10.6追加
2	99	L14	① 茶室, あずまやその他これらに類する建築物	※番号の後にスペースが入っている。 ② 茶室, あずまやその他これらに類する建築物	R3.11.19
3	101	図3.3-2			R4.10.6追加
4	102	L28	さび止め等の	さび止め等の	R4.10.6追加
5	102	表内	・・・1.0以下の・・・	・・・1.0以上の・・・	R4.10.6追加
6	109	L10	面積をその	面積をその	R4.10.6追加
7	172	L20	標準せん断力係数	標準せん断係数	R4.10.6追加
8	197	図3-7-5		※下記の図の記述の重なり(赤枠部分) 	R4.10.6追加
9	309	L32	原則として二重・・・	原則として二重・・・	R4.10.6追加
10	309	L32	負の摩擦力が作用する・・・	負の作用する・・・	R4.10.6追加
11	311	L32	$2 \leq H/D \leq 5$	$2 \leq H/D \leq 5$	R4.10.6追加
12	313	L23	東北地方太平洋沖地震	東日本大震災	R4.10.6追加
13	344	L18	a)～d)	a)～b)	R4.10.6追加

No.	ページ	行等 (Lは行数)	正	誤	備考
14	346	図6.2-7	※○▲の凡例(下記)を追記 ○:ヒンジ位置 ▲:局部崩壊	○▲の説明がない	R4.10.6追加
15	395	L1	Ds算定時に塑性ヒンジが生じない等、当該部材が終局状態に至らない柱の種別は・・・	Ds算定時に塑性ヒンジが生じない、または脆性破壊を生じない柱の種別は・・・	R4.10.6追加
16	419	表6.6-1	○	※集材等建築物の剛性率と偏心率の欄の上付き記号削除(計4箇所) ○ ^{*5*6}	R4.10.6追加
17	419	L7	・・・層間変形角は150分の1以内でなければならない・・・	・・・層間変形角は150分の1でなければならない・・・	R3.11.19
18	428	L20	平19国交告・・・	平19国交告平19国交告・・・	R4.10.6追加
19	452	L15	各種合成構造設計指針・同解説	各種合成構造指針・同解説	R4.10.6追加
20	459	L11	低減率 Fh	低減 Fh	R4.10.6追加
21	505～ 531	奇数ページヘッ ダー章立ての記 載	「木材の許容応力度及び材料強度」	「木造許容応力度及び材料強度」	R4.10.6追加
22	602	付図1.1-4の(a)	2階の層せん断力 0.446	2階の層せん断力 0.496	R4.10.6追加
23	630	L17	均等間隔	均等間隔	R4.10.6追加
24	650	L21	・・・1357×10 ³	・・・1357×10 ³	R4.10.6追加
25	652	L27	$N/Ny > Aw/2A$ であるので	$N/Ny < Aw/2A$ であるので	R3.9.17
26	654	L22	分子の計算式 $2 \times 585,000(681+650/2-75)$	分子の計算式 $2 \times 585(681+650/2-75)$	R4.10.6追加
27	680	L32	(付図1.3-12)	(付図1.3-13)	R4.1.19
28	684	L15	β	B	R4.10.6追加
29	700	L21	断面間の距離	断面間の距離	R4.10.6追加
30	716	L5	図を削除(黒傍線も)	不要な図を掲載	R4.10.6追加
31	731	L23	$A'_i = 1 + \kappa_1(1 - \alpha_i) + \kappa_2 \left(\frac{1}{\alpha_i} - 1 \right)$	$A'_i = 1 + \kappa_1(1 - \alpha_i) - \kappa_2 \left(\frac{1}{\alpha_i} - 1 \right)$	R4.10.6追加
32	733	付表1.5-4	No.4 X2の負担割合 0.6	No.4 X2の負担割合 0.8	R4.10.6追加

No.	ページ	行等 (Lは行数)	正	誤	備考
33	734	図No.1		<p>※横軸値は通り名が正しい。</p>	R4.10.6追加
34	742	L34	$\Delta \underline{d} = \dots$	$\Delta \underline{s} = \dots$	R4.10.6追加
35	754	L34	$\max(\alpha_p, \underline{F}_s)$	$\max(\alpha_p, \underline{F}_x)$	R4.10.6追加
36	757	L26	・・・鉄筋コンクリート構造計算規準・・・	・・・鉄筋コンクリート造計算規準・・・	R4.10.6追加
37	772	L3	付図1.8- <u>8</u>	付図1.8- <u>7</u>	R4.10.6追加
38	773	L33~L34	フーリエスペクトル形状は、基盤震度が浅くなるAX計測点より東側の計測点で周期0.2秒以下の帯域の振幅が小さくなっている。	基盤震度が浅くなるAX計測点より東では、フーリエスペクトル形状は周期0.2秒以下の帯域で振幅が小さくなっている。	R4.10.6追加